

ヤンゴンの1年で
どんな変化が?

特集1 創刊1周年記念

日系企業のビジネス
展開は順調?

どう変わった? ミャンマー

どうやって情報は
集めているの?

創刊1周年の今回はミャンジャポが歩んできた1年と、ミャンマーの1年を振り返るダイジェスト版。変化していく街の魅力を、御世話になった方々のコメントから探してみたい。

ミャンジャポは
どこで手に入る?

創刊1周年を迎えて

心から感謝の気持ちを込めて。お陰様でMYANMAR JAPON誌はこの6/20号で満1年を迎えることができました。お陰様とは、普段見えていない陰の部分に助けられそして恩恵を受けている、だからこそ様を付け丁寧にした感謝の言葉だそうです。

これからも決して驕ることがなく、そしてスタッフ一丸となり読者皆さまのお役に立つ誌面作りを心がけていきたいと思えます。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い致します。

代表 永杉 豊

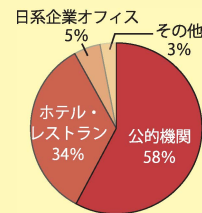


ビジネス出張者に「最適」、
駐在者に「快適」、
旅行者に「便利」を目指し——。
そのすべてを「MYANMAR JAPON」
に詰め込んだ。

What's MYANMAR JAPON ?

まだまだ日本語の活字情報が少なかったミャンマーで、初の月刊・日本語情報誌を2013年6月に創刊。成長著しいミャンマーを訪れる出張者に向けたビジネスコンテンツを中心に、ヤンゴン在住の駐在員とその家族、さらには旅行者のニーズにも応えた幅広い内容を実現。足で稼いだ生の情報を重視した誌面づくりで、読み捨てるのではなく、毎号が保存版のフリーマガジンである。

配布割合・設置場所は



いつもの場所にミャンジャポ。ヤンゴン在住日本人がよく利用する日本料理店やホテル、空港他、日本でも駐日ミャンマー大使館やアセアンセンター、商工会議所で最新号をGETできる。毎月20日頃に絶賛配布中!

お祝いのコメント、頂戴しました!!

大変有効に活用でき、ヤンゴン日本人学校の動きの掲載で、進出企業の家族呼び寄せの情報にもなっています。開かれた学校への一助として、保護者以外の方からも学校に対する理解が広がっています。
[日本人学校 置田和永校長]

創刊1周年、おめでとうございます。私がヤンゴンに関する情報誌で、初めて手にしたのがミャンマージャポンの9月号でした。以来、大変お世話になっております。

[ANA ヤンゴン支店 本宮重人氏]

ミャンマーはこの1年、どう変わったか 2013年春～2014年現在

激動の1年を乗り越えた企業や関係者のコメントから、1年の変化を振り返ってみよう。きっと何かしらの気づきや、ビジネスのヒントが見つかるはず!!

公的機関

この1年で、世界でも類を見ないほど対ミャンマー ODA (政府開発援助) は量、分野ともに激増した。ミャンマー政府主導のもと、インフラや人材育成等については今後順調に整備されていくと思われ、JICA もフルサポートする。

[JICA ミャンマー事務所
田中雅彦所長]

日本人会

1年の変化として、まずジャパクラブの場所がマリーナレジデンス1階からホテルカンゴウ内に移転。さらに会員が1年で約2倍に増加、760名に達し(5月末時点)事務局の受付にも大きな加重負担がかかってきている。

その他、日本人会機関誌「パダウ」は月1回となり、発行回数が減った。代わりに念願のホームページを立ち上げ、より情報発信が拡大。加えて朗報は、来緬される会員の年齢層が若くなり、「ヤングパワー」で活性化されつつあること。

[ヤンゴン日本人会広報担当 置田和永氏]



日本人学校

1年前と比べ、在籍数は約5割増し。JCCY (ヤンゴン日本人商工会議所) の支援で校舎建設の動きが加速し、来年3月の竣工が可能になってきた。他にはスクールバスの維持管理が難しくなって民営化へ移行する、など。

今年は11/2 (日) に創立50周年記念行事を予定。日本在住の卒業生や先輩が来緬する。国立劇場で本校のチルドレンズフェスティバルを初開催。来年3/13の卒園式・卒業式(予定)が新校舎で実施でき、1人も本校からウェイティングが出ないことを切に願う。

[ヤンゴン日本人学校 置田和永校長]



家電業界

家電商品は2極化が進行中。ヤンゴンやマンダレーの大都市では、富裕層はさらに裕福になっている傾向を感じる。1つは美容商品の売上げが大幅に増加。生活に少しづつではあるが余裕が出てきたと同時にTVドラマなどの影響による女性の“美”に対する変化があげられる。「少しでもきれいになりたい」という女性の思いは世界共通だ。

もう1つはTV販売。主流は32インチ以下だったが、40、50インチクラスの大型化TVが価格下落と収入増により増加傾向で、今後さらに加速されるとみている。ただし、地方都市ではどの商品も低価格を好む傾向が強く、大都市と地方都市を切り分けた商品投入・施策実施が必要と感じている。

[Panasonic ミャンマー支店 前田恒和氏]



オフィス機器

昨年比でJCCYの会員法人数が約2倍になったことに伴い、日系企業を中心に複合機への問い合わせ件数が倍以上に増えた。

[Fuji Xerox ミャンマー支店 加藤英明氏]

レンタルオフィス

ヤンゴンにKDDIビジネスセンター（レンタルオフィス）を設立し約1年3カ月が経過。業種問わず、さまざまな法人が入居している。

日系以外のレンタルオフィスも増える中、最終的に当社を選択したのは“ネット環境”最優先の結果。障害が多いミャンマーにおいて、日本と変わらないスピード感は貴重。別々のキャリアで冗長化していること、停電の多いヤンゴンでビルとは別のフロア専用のジェネレータを完備していること、の2点が大きなポイント。

当初は会社設立目的の法人がほとんどだったが、現在ではすでにオフィスがあるにも関わらず、セカンドオフィス利用の企業が増えつつある。まさに“時は金なり”で「ビジネス効率化の大原則で最終判断をした」と聞いた。

[KDDI ミャンマー 増田正彦氏]



航空業界

ANAのヤンゴン線は当初、飛行機B737で週3便運航だったが、昨年9月末からB767に大型化し毎日運航している。1年前と比べると、座席提供数は約12倍強、利用客の数は約13倍と、利用率も上昇する結果になった。

[ANA ヤンゴン支店 本宮重人氏]



ホテル業界

昨年より日本人、欧米人の客数が増えた。この1年、特にヤンゴンではホテルの建設が進んでいる。増加する旅客数に見合うホテルの部屋数の確保ができれば、

ホテルや観光業界も利用客にとってうれしい。当ホテルでは、多様なニーズに応えるべく昨年

から今年にかけて施設を改装。日本料理屋「琥珀」も今年6月6日に新装オープン。5つ星の国際高級ホテルとして毎年、世界からVIPが訪れ、昨年5月には日本・安倍首相も宿泊した。

[Chatrium Hotel 担当者]

写真提供 Chatrium Hotel



テナント管理

大手よりベンチャーや日本以外の外資系企業の入居が増えた。一方、バガン（ホテル経営）ではホテル建設ラッシュと欧米人観光客の激増。また、ミャンマー人の人手不足は深刻で、国民の格差が生まれている。

さらにクレジットATMの普及が急速に進み、サクラタワーでも9月10月から給与振込を導入できることに。ホテルなどクレジットカード取扱箇所も1年間で急増した。

[EXE Corporation 寺田敏秀氏]



旅行業界

この1年で旅行会社を通じた旅行者は増加傾向にある。大きな変化は2つ。ホテルの供給量が増え、1年前の空室ゼロの状況はなくなった。価格は落ち着き、特に3つ星の100USドル前後が取りやすくなった。

また、昨年秋から「ヤンゴン～成田」間の毎日ANA直行便ができ、日本との往来は容易になった。と同時に今までの各航空会社も価格競争になって、プロモーション価格が出やすい状況へ。旅行や視察の見積もりが調整しやすくなった。

[HIS ヤンゴン支店 水野喜文氏]



飲料業界

昨年9月と今年2月の日本展示会へ出展を機に、リピーターが着実に増加。信頼できる現地代理店のおかげで、日本料理店やスーパーに置いてもらい、一歩ずつ前進。さらなる展開を視野に年内の駐在を目指す。

[伊藤園 薬師神繁明氏]



日本料理店

日本人のお客様の他にも、韓国人をはじめ外国人がたくさん増えて驚いた。

[一番館 小丸かほり氏]

昨年2月から急に日本人出張者のお客が増え、以降は多くの方が足を運んでくれるようになった。

[ふるさと 恒吉ふぢこ氏]

2年前のヤンゴンの状況からは想定できなかった。同じように和食のビジネス展開を考えていた店が、昨年一気には増えた。

[約1年前にオープンした日本料理店]



アート業界

まだミャンマーの市場は少ないが、この1年でアートギャラリーが増え、今後の変化に期待している。

[画家 Myoe Thant Oung 氏]



日本展示会

Japan Products Expoはヤンゴンとマンダレーで年2回開催。日本企業が増え、ミャンマーの現地企業や消費者も多く興味を示し、来場者は着実に増えている。

[Myanmar Professional Services (MPS) 社 Zaw Ni Mg Mg 氏]



予告 Japan Products Expo 2014
2014年11月13日～16日（4日間・ヤンゴンのタマドホールで）

★ミャンジャポ代表EYE'S★

日本の中小をはじめ大手企業の進出ラッシュが続く中、次の3つの業界が現在、多忙を極めている。

①ドライバー付きカーリース業 ②内装リフォーム業 ③人材教育など進出後のサポートに関わるサービス業

OA機器メーカーはこれからだが、今後もより日本的なきめ細かなサービスを提供できる企業は伸びしろがあるのではないかと。

これからも皆さんに「ミャンジャポがあっけよかった！」と思ってもらえるよう、私たち編集部一同、精一杯取り組んでいきます。